



昭和十五年五月四日

(日二月二十日正大可觀物便郵種三第)

[一] 第五十五百九十一號

〔貞曜日〕

新 城 駅

## 大阪の

青木 淳

同窓だより(上)

私が京都から、大中の同窓生と偶然、顔をあわせた。私は京都から、大阪に通ふ様になつた。去年から、鈴木正武氏、ご京都の出でてゐる会社の社員が車に、同時に乗るので、とうとう鉢木さんのクルマに入れられてしまつた。京都から、大阪及び神戸へ地動する人々多々、自然何時どなしに顔じしのみ。しかし、物語は、鉢木さんを中心として、一歩も入らぬまま、自然のまま、鉢木さんとお話ししてしまつた。鉢木さんとお話ししてしまつた。鉢木さんとお話ししてしまつた。

鉢木の機会を離れて、その英霊を社員

一同、大阪驛に出迎へて出

てみると、その英靈の歸還

車の運転手が威儀

と正しく出迎へてゐた。自

然私もその泰無事の運転手

の運転手が、おまかづつた。

正しくおまかづつた。

おまかづつた。

おま

